

## 霧島山

### 概 況

御鉢火口の噴気活動は、監視カメラで時折、御鉢火口縁上に噴気が上がっているのを観測するなど、消長を繰り返しながらやや活発な状態が続いています。

新燃岳付近を震源とする火山性地震は比較的少ない状態でした。

### 噴気活動の状況

御鉢火口内の噴気活動は、消長を繰り返しながら、やや活発な状態が続いています。監視カメラによる観測では、御鉢火口縁上から高さ 50～400m の噴気が時折上がっているのが観測されました。噴気高度の最高は、25 日の 400m でした（図 3）。

新燃岳火口周辺では、噴気活動に大きな変化は認められませんでした。

### 地震・微動活動の状況

霧島山の地震回数（気象庁観測点 A 点）は、85 回（7 月：92 回）でした（図 1 の ）。これらのうち震源が求まった地震は、新燃岳付近と御鉢付近のごく浅いところに分布し、その他は火山活動とは直接関係はないと思われるところに分布しました（図 4）。

#### 新燃岳

新燃岳付近を震源とする火山性地震は、1 日あたり 0～3 回と少ない状態で経過しました。8 月の地震回数は 8 回（7 月：20 回）でした。これらの地震はいずれも微小な地震でした（図 2）。

新燃岳付近を震源とする火山性微動は発生しませんでした。

#### 御鉢

御鉢付近を震源とする火山性地震は、1 日あたり 0～2 回と少ない状態で経過し、8 月の地震回数は 6 回（7 月：8 回）でした（図 1 の ）。

御鉢付近を震源とする火山性微動は発生しませんでした。

### 地殻変動の状況

GPS 連続観測（気象研究所の観測点を含む）では、矢岳登山口 - 高千穂峰、高千穂峰 - 荒襲などの基線長は、今年 4 月頃から緩やかに縮みの傾向が見られます。昨年もほぼ同様の傾向がみられているため季節変動の可能性もあり、長期的に見守っていく必要があります（図 6）。

また、気象研究所の 3 点の傾斜計には、火山活動に起因する変化は観測されませんでした。

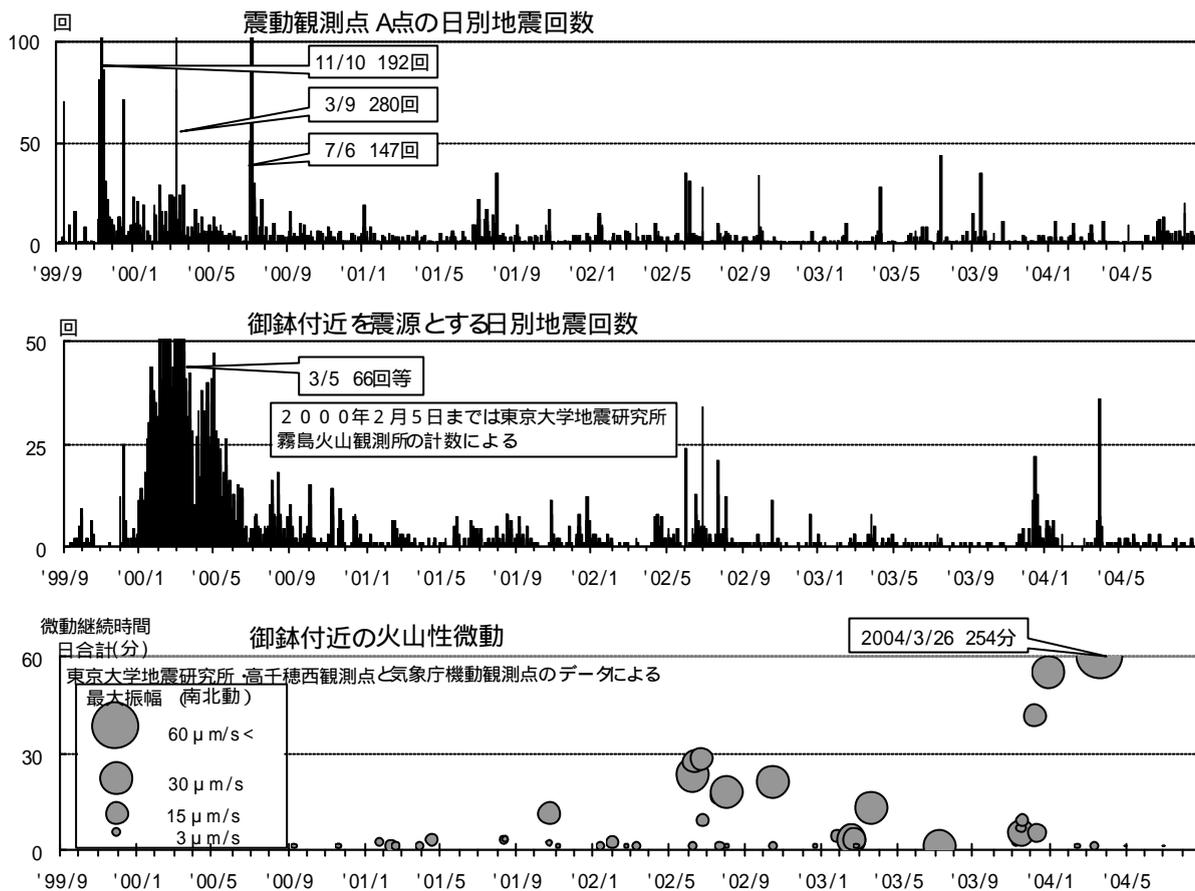


図1 火山活動経過図(1999年9月~2004年8月)

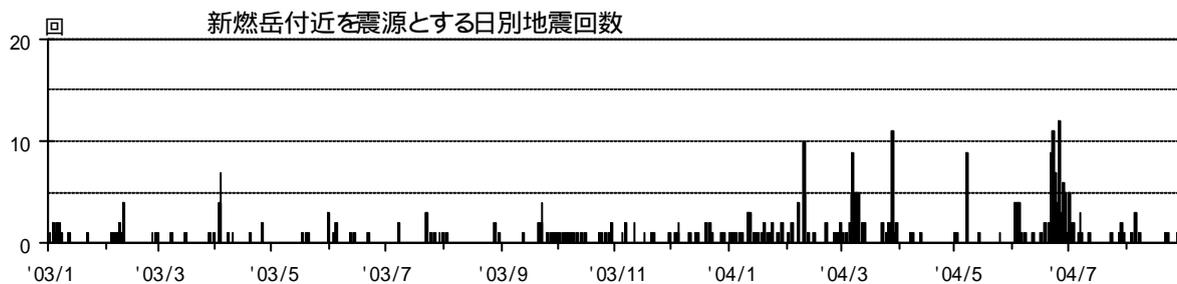


図2 火山活動経過図(2003年1月~2004年8月)

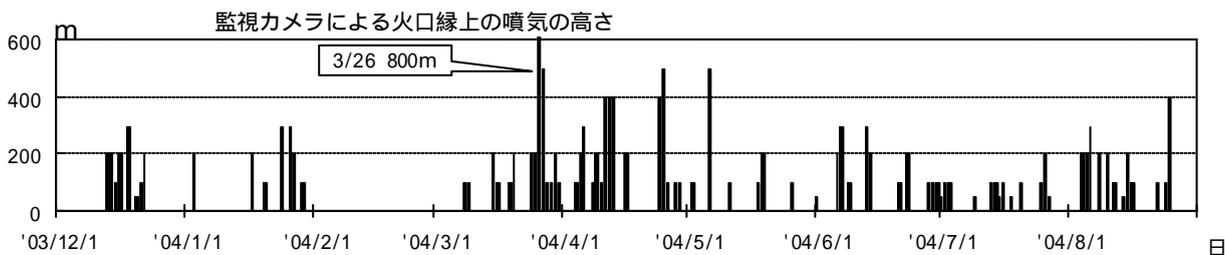


図3 御鉢火口の噴気の最高高度(2003年12月~2004年8月)

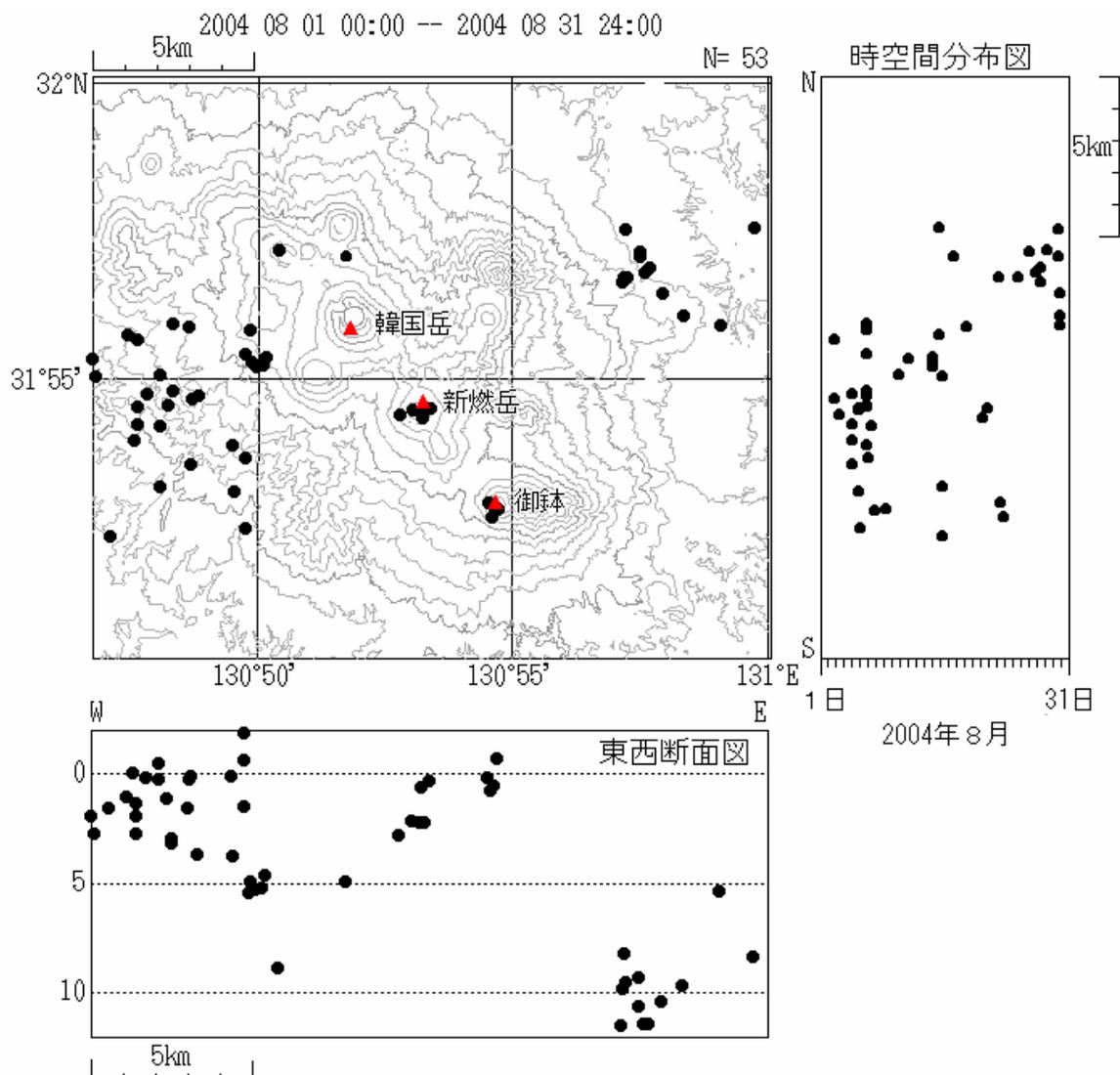


図4 震央分布図(上) 断面図(下) 時空間分布図(右)  
(2004年8月1日～8月31日)

本資料は、独立行政法人防災科学技術研究所、東京大学、気象庁のデータを用いて作成している。

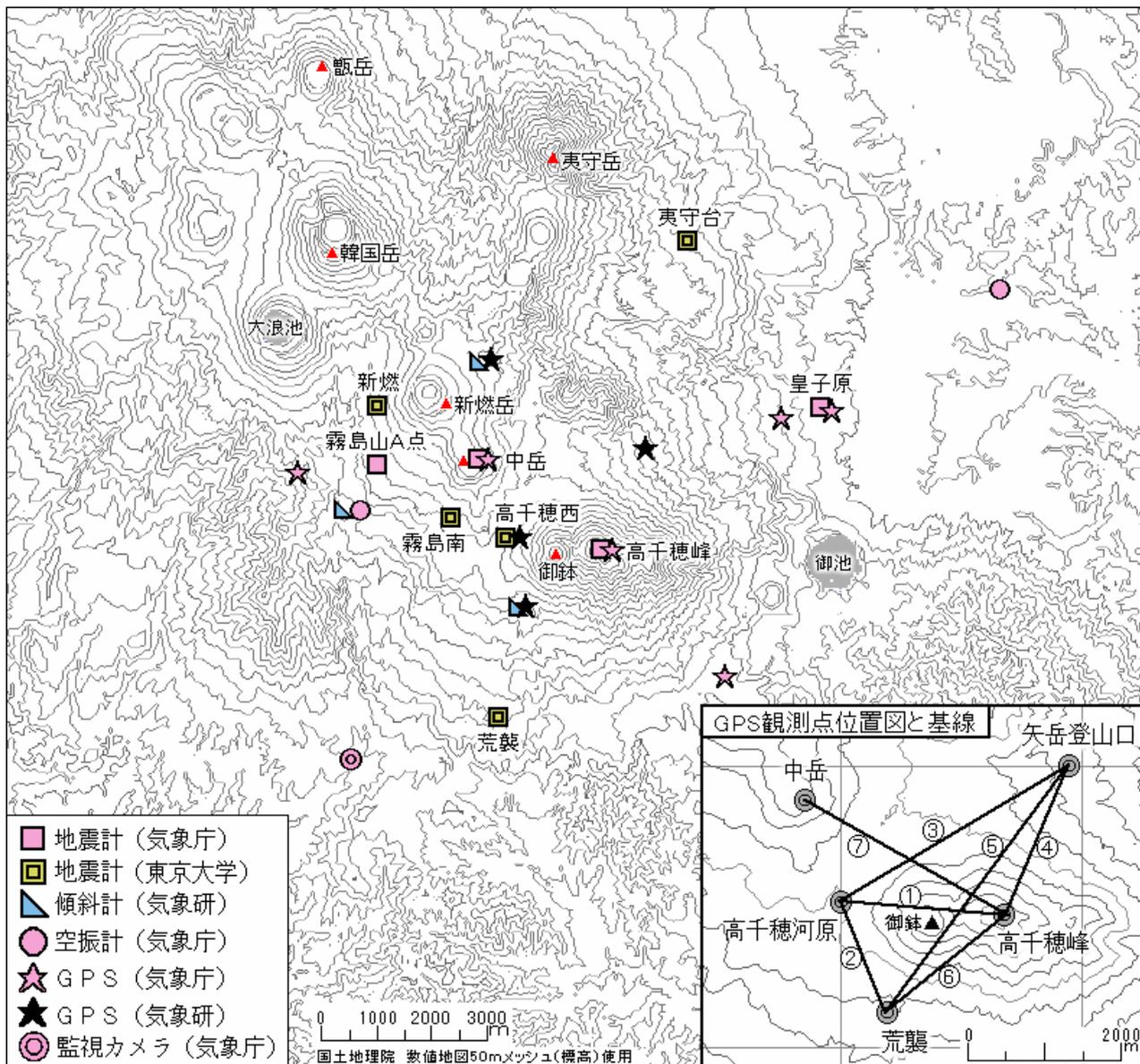


図5 霧島山広域観測点位置図(気象庁監視)

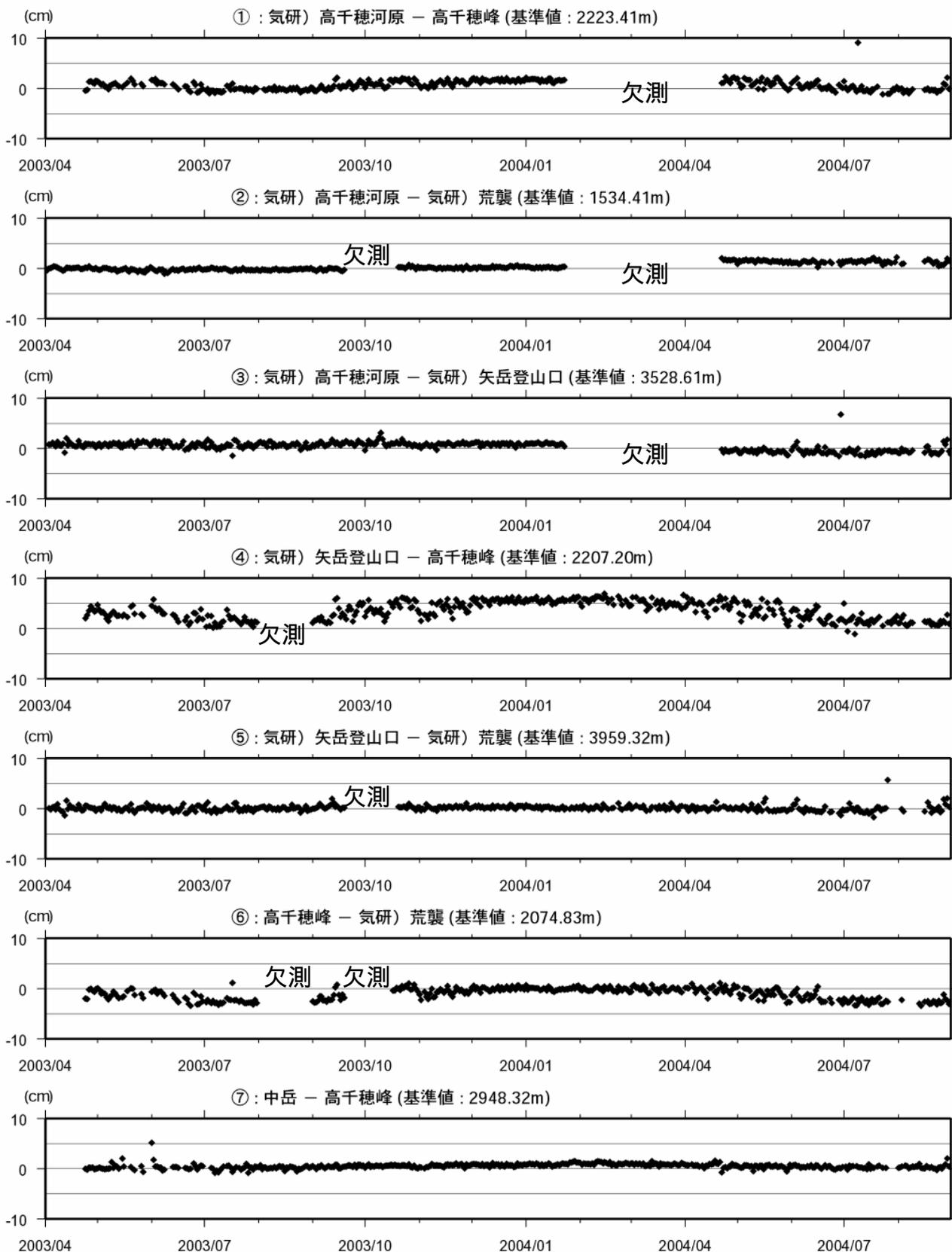


図 6 GPS による基線長変化(2003 年 4 月 1 日 ~ 2004 年 8 月 31 日)  
 ・気研) 高千穂河原観測点は 2004 年 1 月 23 日から 4 月 22 日まで欠測